

命を与ふ—医療の歴史—

—平成13年度特別展の開催にあたって—

館長 松井新一

岡山県立博物館は、県政百年記念事業として、昭和46年8月に開館し、今年夏で満30年が過ぎました。今年度は「命を与ふ—医療の歴史—」をテーマに特別展を開催します。

科学技術の時代といわれた前世紀を経て、医学の進歩は著しく、栄養や衛生状態の改善の助けもあり、わが国の平均寿命は大幅に伸長し、今や、世界有数の長寿国であります。

先人たちは果敢に病に挑戦し、不治の難病をも克服してきました。長い間人類を苦しめた天然痘は日本では昭和55年に絶滅宣言が出され、ペストもコレラもかつての大流行を見ることはありません。これらは多大な犠牲を払い、長い年月をかけて幾多の先人が病の克服に取り組んだ努力の結果であります。

この展覧会では、日本の医学史をたどりながら、岡山ゆかりの医学に携わった先人の事績と、当時の病や治療の歴史を紹介します。古くは典薬頭に就いた和氣清麻呂の子孫をはじめ、栄西、宇田川・箕作みつくり両家の人々、緒方洪庵ら、日本医学史に大きな足跡を残した人物のほか、医学史上の有名無名の先人たちが残した遺産や、医薬が十分に行き渡らなかった時代の人々の病に向かい合う姿など、当時の医学を知ることのできる貴重な資料を取り上げます。

その中でも、平安時代の病気の様子が描かれた国宝『病草紙やまいのそうし』と、日本最古の医学書で、国宝『医心方』は、岡山県で初公開となります。

なお、本特別展の主題「命を与ふ」は、緒方洪庵の『扶氏医戒之略』の中の「……命を与ふ

とも、其命を繋ぐの資を奪はば、亦何の益かあらん……」からいただいたものです。

この展覧会が、岡山、さらには日本の医学の発展にかかわった人々の歩みを振り返り、郷土が誇る先人の偉業をご認識いただくとともに、健康や養生という、ともすれば私たちがおろそかにしがちなことを思いおこしていただく機会になれば幸いです。

最後になりましたが、本特別展の開催にあたり、格別な御協力を賜りました関係の皆さまに対し、謹んで厚くお礼申し上げますとともに、今後とも当館の活動にいつそうの御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。



☆平成13年度特別展

命を与ふー医療の歴史ー

平成13年10月26日(金)～11月25日(日)

1 医学の神様

現在では医学は科学の最先端で、神様とは一番遠いところにいるかもしれませんが、江戸時代まで、医学は神秘の領域に属し、医者は神様を厚く信仰していたようです。中国医学の神様“神農”、西洋医学の神様“ヒポクラテス”、日本の医学の神様“少彦名命”、そして邪気を払うと民間で信仰された靈獣“白沢”などが医学の神様として信仰されていました。

2 古代から中世の医学

ここでは岡山県で初公開の国宝『医心方』と『病草紙』を展示します。『医心方』は岡山出身の和氣清麻呂の子孫で、代々典薬頭を勤めた半井家が正親町天皇から下賜され、秘蔵していた日本最古の医学書です。平安時代の日本と中国の医学を知るうえで大変貴重な資料です。『病草紙』は同じく平安時代に描かれた当時の病気を描いた絵で、今から千年近く前の人々の病に苦しむ姿を見ることができます。

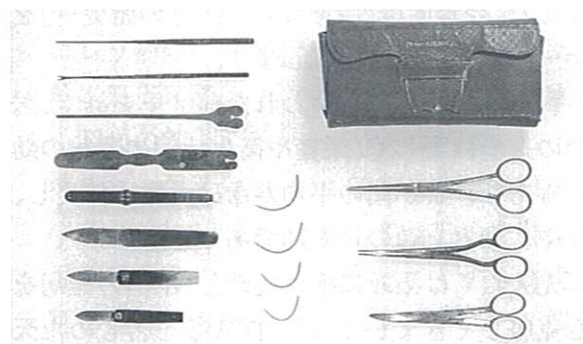


国宝 病草紙 (京都国立博物館)

このほかに鎌倉時代では梶原性全の『頓医鈔』、室町時代では有林の『有林福田方』といった、各時代を代表する医学書を展示します。臨濟宗開祖の栄西が著した『喫茶養生記』は医学書ではありませんが、お茶を薬として紹介しており、当時の医学の一端を知ることができる本として興味深いものといえます。

3 近世医学の先駆者たち

近世医学の扉は曲直瀬道三によって開かれましたが、ここでは日本医学史の中で重要な人物を取り上げながら岡山との関わりを見ていきます。華岡青洲は、世界で最初に全身麻酔に成功し、華岡流外科を創設した人物です。全国に華岡流外科は広がり、岡山からも学んだ人物は多数いました。資料として、華岡流手術道具や青洲の手紙などを紹介します。また、日本に西洋の進んだ医学をもたらししたシーボルトも欠かせない人物です。岡山県内には彼の門下生がおり、またシーボルトの娘イネが産科を学んだ場所でもあります。イネの自筆書状や多くの写真などで、イネとその娘たかを紹介します。

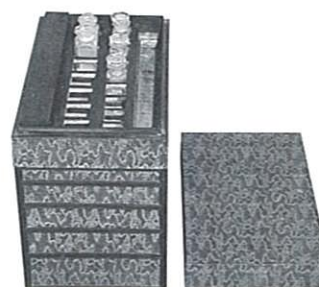


シーボルト手術道具 (東京国立博物館)

4 岡山ゆかりの医師たち

江戸時代に活躍した津山洋学の宇田川3代(玄随・玄真・榕庵)、箕作阮甫、足守出身の緒方洪庵らを取り上げます。彼らの自筆の原稿や著書、肖像などを通して、彼らが日本の医学に果たした役割をご理解いただきたいと思います。

また、有名な洪庵や宇田川家だけでなく、難波抱節をはじめとする地元で医療活動に従事した医師や、あまり知られてはいないものの、

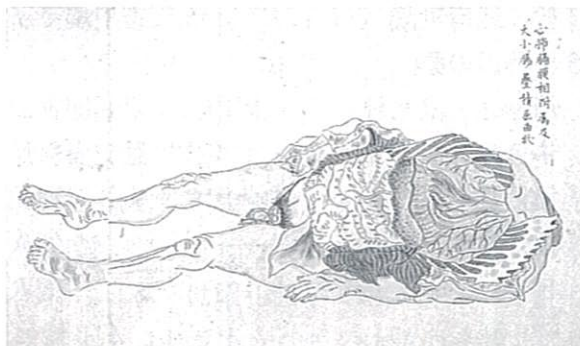


緒方洪庵所用薬箱 (適塾記念会)

江戸や京都・大坂で功績を残した岡山出身の医師を紹介します。私たちの知らない多くの医師たちが日本の医学史に、あるいは地域の医療活動に大きく貢献しているのです。

5 人体の解剖

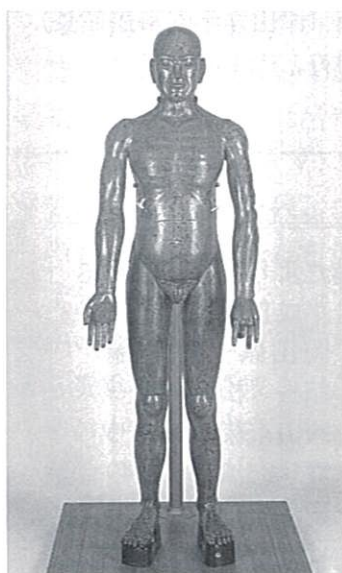
『解体新書』刊行は、日本医学史上大きな出来事で、これによって日本医学の近代化が進んでいくことになります。しかしいきなり『解体新書』が刊行されたわけではありません。そこに至るまでの多くの人々の努力と研究の積み重ねがあって『解体新書』が生まれたといえます。ここでは解剖という視点から日本近代医学の開花までの道のりを見ていきたいと思います。日本最初の解剖図『蔵志』や貴重な解剖書も多数展示します。



平郎臓圖（究理堂文庫）

6 医療器具

ここでは少し視点を変えて、当時の医師の姿



銅人形（東京国立博物館）

をいろいろな資料から見てみたいと思います。〈医療器具〉のコーナーでは薬箆筒や薬研のほか、人体模型（銅人形）や紙でできた外国製の心臓模型などを展示します。〈医療にかかわる様々な資料〉のコーナーでは、医師の免許状や医師としての心得を

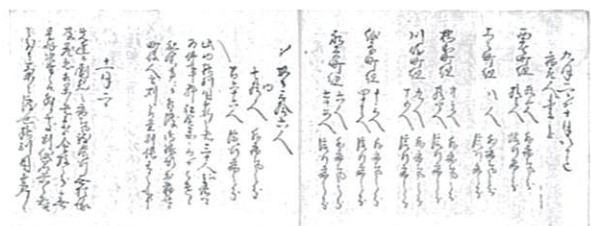
記した巻物などもご覧いただけます。現在のように入った医療機器も国家試験もない時代、医師はどんな器具を使って医業を営み、どんな思いで人々の治療に取り組んでいったのでしょうか。

7 医療の専門化

室町時代から起こった医療の分化（専門化）は江戸時代にさらに進みます。ここでは岡山にゆかりの人物が著した医学書を分野ごとに展示します。特に江戸時代後期の蘭学発展以後、多くの医師が西洋の医学書を翻訳しましたが、その中に多くの岡山ゆかりの人物を見つけることができます。また、ただの翻訳だけでなく自分の臨床経験を取り入れた医学書も多く、これらの本は当時の医療現場の医師たちにとって大変参考となったことは容易に想像できます。

8 病気への取り組み

ここでは主な病気別にどのような医療が行われていったかを探ります。取り上げる病気は疱瘡（天然痘）・麻疹（はしか）・コレラ・梅毒です。現在でこそ流行はなくなりましたが、江戸時代にはたびたび流行し、多くの人々が亡くなりました。有効な治療方法がない時代、どのように人々は病気に対処していったのでしょうか。特にジェンナーの牛痘種痘がどのように岡山に広がっていったのか、残された数少ない資料から振り返ります。



「劇烈之病流行二付」等に関する綴（岡山市立中央図書館）

9 岡山の薬

最後は医療とは切っても切れない薬のコーナーです。江戸時代といえば富山の売薬が盛んでしたが、岡山でも薬が作られていました。特に富山売薬の元といわれる延壽返魂丹^{えんじゆはんこんたん}や県内で作られた江戸時代の家伝薬の資料などを展示します。

主な展示資料

◎国宝

1 医学の神様

佐藤陶崖作神農像	個人
ヒポクラテス画像	個人
少彦名命画像	個人
白沢の図	個人

2 古代から中世の医学

墨書土器	奈良文化財研究所
◎医心方 丹毒瘡部・婦人部	東京国立博物館
◎病草紙 風病・霍乱	京都国立博物館
伝死病種事	岡山市 金山寺
有林福田方	東京国立博物館

3 近世医学の先駆者たち

吉益東洞画像	個人
華岡青洲画像	個人
華岡流手術道具	個人
シーボルト処方箋	大洲市立博物館
楠本稻書状	大洲市立博物館

4 岡山ゆかりの医師たち

宇田川玄随画像	岡山県立博物館
医範提綱・内象銅版図	個人・岡山県立博物館
舎密開宗	岡山県立博物館
箕作阮甫手稿 泰西名医彙講	東京大学医学図書館
緒方洪庵木像	大阪市 適塾記念会
緒方洪庵所用薬箱	大阪市 適塾記念会
難波抱節画像	個人
石井宗謙書状	個人
家事筆記	個人
新宮涼民書状	個人
松原家配剤記（文政2年）	個人

5 人体の解剖

蔵志	国際日本文化研究センター
解体新書	大阪市史編纂所
玉碎臓図	京都市 究理堂文庫
打頸重罪人解剖図	東京大学医学図書館
質測窮理解臓図賦	岡山大学附属図書館鹿田分館

6 医療器具

紙製心臓模型	京都市 究理堂文庫
--------	-----------

人体模型（銅人形）	東京国立博物館
種痘針	岡山大学医学部資料室
岸本友仙往来手形	個人
阿蘭陀流外科免許状	個人

7 医療の専門化

公氏医宗玉海	岡山市立中央図書館
柚木流眼科	岡山大学附属図書館鹿田分館
生理発蒙	個人
南陽館一家言	国際日本文化研究センター
小児全書	美甘村教育委員会

8 病気への取り組み

種痘養生心得	個人
瘡瘡安全小児の軽業	国際日本文化研究センター
松原家麻疹処剤（享和3年）	個人
コレラ病論	国際日本文化研究センター
絵本黴瘡軍談	大阪市史編纂所

9 岡山の薬

消毒丸・混元丹	岡山大学附属図書館
牛黄丸	美作町歴史資料館
混元丹薬方	内藤記念くすり博物館
延壽返魂丹看板	個人
日本一流薬王散看板	個人

記念講演会

日時	11月10日（土）13:30～15:00
場所	岡山県立博物館講堂
講師	下山純正氏（津山洋学資料館館長）
演題	解体新書刊行と津山の洋学
	聴講無料

岡山県立博物館だより No.56

発行日 平成13年10月1日
発行者 岡山県立博物館
館長 松井 新一
岡山市後楽園1-5
☎(086)272-1149

ホームページアドレス

<http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/kenhaku/hakubu.htm>